

病理検査学Ⅱ

Pathological Examination Ⅱ

生命：L1-37321MS

医療科目 3年／後期 2単位 選択必修科目

科目責任者 大河戸 光章(非常勤講師)

■教育目的

臨床検査技師が細胞診検査を行う際に必要な基礎的知識、技術、判定方法を学ぶ。総論では、組織診との相違点、細胞採取法、検体処理法、塗抹法、固定法、染色法の標本作製法について学び、細胞診検査を行う上での責任感を理解させる。各論内容については、子宮頸部細胞診、呼吸器細胞診、体腔液細胞診の検体に出現する基本的な細胞像について解説し、細胞画像を用いて実際に細胞診判定させる。

【卒業認定・学位授与の方針：SD-① SD-② SD-③】

■学習到達目標

《一般目標》

①細胞診検査の概要を理解できるようになる(知識、技能)

《個別目標》

①細胞学的検査の概要と限界を組織学的検査法と比較して説明できる(知識、技能)

②悪性腫瘍細胞の一般的特徴を説明し、細胞画像から判断できる(知識、技能)

③細胞診検体の採取方法から塗抹、固定、染色までの標本作製の工程を説明できる(知識、技能)

④ Papanicolaou 染色、Giemsa 染色を説明できる(知識、技能)

⑤子宮頸部細胞診標本上の性感染症、上皮内病変、扁平上皮癌の細胞学的特徴を説明できる(知識、技能)

⑥呼吸器細胞診標本上の円柱上皮過形成、腺癌、扁平上皮癌、小細胞癌の細胞学的特徴を説明できる(知識、技能)

⑦体腔液細胞診標本上の反応性中皮、腺癌の細胞像を細胞学的特徴を説明できる(知識、技能)

⑧各検体の細胞画像を観察して細胞診判定できる(知識、技能)

■準備学習（予習・復習）

予習：教科書・配布済みワークノートの記載に目を通しておくこと(30分以上)

復習：授業資料を再視聴し授業内で触れたキーワードを中心に発展的に自分でノートをまとめる(10分)。過去の臨床検査技師国家試験の当該領域に目を通し理解しておくこと(10分)。

■授業形態

講義

■授業内容

No.	項目	授業内容	学修／SBOコード
1	総論 1	組織診検査と細胞診検査/確認テスト 1	
2	総論 2	細胞採取法、検体処理法、塗抹法、固定法、染色法の標本作製/確認テスト 2	
3	総論 3	細胞診判定、悪性細胞の特徴/確認テスト 3	
4	子宮頸部細胞診 1	基礎(解剖、組織、正常細胞)/確認テスト 4	
5	子宮頸部細胞診 2	性感染症/確認テスト 5	
6	子宮頸部細胞診 3	上皮内病変と扁平上皮癌/確認テスト 6	
7	呼吸器細胞診 1	基礎(解剖、組織、正常細胞)/確認テスト 7	
8	呼吸器細胞診 2	悪性腫瘍/確認テスト 8	
9	体腔液細胞診	基礎(解剖、組織、正常細胞)と悪性腫瘍/確認テスト 9	
10	細胞診判定演習 1	細胞画像観察(子宮頸部 3、呼吸器 5、体腔液 2 症例)/細胞診判定テスト 1	
11	細胞診判定演習 2	細胞画像観察(子宮頸部 3、呼吸器 5、体腔液 2 症例)/細胞診判定テスト 2	
12	細胞診判定演習 3	細胞画像観察(子宮頸部 3、呼吸器 5、体腔液 2 症例)/細胞診判定テスト 3	
13	細胞診判定演習 4	細胞画像観察(子宮頸部 3、呼吸器 5、体腔液 2 症例)/細胞診判定テスト 4	
14	細胞診判定演習 5	細胞画像観察(子宮頸部 3、呼吸器 5、体腔液 2 症例)/細胞診判定テスト 5	
15	細胞診判定演習 6	細胞画像観察(子宮頸部 3、呼吸器 5、体腔液 2 症例)/細胞診判定テスト 6	

■ 授業分担者

大河戸 光章 (非常勤講師) (No.1～15)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

My-cast の小テストで成績評価する。No.1～9 (9 回分)は当日の授業動画内容に関する確認テストで、各回で正答率 80%以上の学生に評定点として 5 点を付与する(45 点分)。No.10 は 5 点配点、11～15 (5 回分)は 10 点配点の細胞診判定テストの素点数を評定点として付与する(55 点分)。

■ 教科書

「最新 臨床検査学講座 病理学／病理検査学」松原修・鴨志田伸吾・大河戸光章・小松京子・古田則行 著(医歯薬出版)

■ 参考書

自作講義資料等